

## 式辞

明けましておめでとうございます。

新しい年、令和3年、2021年が始まりました。

2021年の干支は2学期終業式で紹介しました、辛丑（かのとうし）です。

干支の干（え）にあたる十干（じっかん）は甲（こう）・乙（おつ）・丙（へい）・丁（てい）・戊（ぼ）・己（き）・庚（こう）・辛（しん）・壬（じん）・癸（き）の10種類からなります。それぞれ五行「木（もく、き）・火（か、ひ）・土（と、つち）・金（こん、か）・水（すい、みず）」に陰陽（いんよう、おんみょう）を割り当てます。日本では陽を兄、陰を弟として、例えば今年の「庚」は「金の兄（かのえ）」、今年の「辛」は「金の弟（かのと）」と呼ぶようになったそうです。辛の字は同音の「新」につながり、植物が枯れて新しい世代が生まれようとする状態として十干の8番目になります。

干支の支（と）にあたる「丑（うし）」は「紐（ちゆう）」（ひも、からむ、の意味）で、芽が種子の中に生じてまだ伸びることができない状態を表しているとされ、指をかぎ型に曲げて糸を撚ったり編んだりする象形ともいわれます。十二支の2番目です

十二支にねずみ、うし、などの動物の読み方を当てはめたのは、庶民が覚えやすいようにするために後の時代のこと、と昨年も紹介しました。

さて生徒会誌巻頭言で、高村光太郎の詩「牛」を10月24日読売新聞「編集手帳」の引用で紹介しました。新年1月3日の中日新聞「中日春秋」でもこの詩を目にしました。

とても力強い詩です。

高村光太郎詩集（尾崎喜八編 世界の詩集3 彌生書房 松蔭高等学校図書館所蔵）から少し読み上げて、丑年のスタートにあたっての皆さんへのエールとします。

## 牛

牛はのろのろと歩く  
牛は野でも山でも道でも川でも  
自分の行きたいところへは  
まつすぐに行く  
牛はただでは飛ばない、ただでは踊らない  
がちり、がちりと  
牛は砂を掘り土を掘り石をはねとばし  
やつぱり牛はのろのろと歩く  
牛は急ぐ事をしない  
牛は力一ぱいに地面を頼って行く  
自分を載せてある自然の力を信じきって行く  
ひと足、ひと足、牛は自分の道を味はって行く  
ふみ出す足は必然だ  
うはの空の事ではない  
是（ぜ）でも非（ひ）でも  
出さないではあられない足を出す  
牛だ  
出したが最後  
牛は後（あと）へはかへらない  
足が地面へめり込んでかへらない  
そしてやつぱり牛はのろのろと歩く  
（中略）  
それでもやつぱり牛はのろのろと歩く  
何処までも歩く  
歩きながら草を食ふ  
大地から生えてる草を食ふ  
そして大きな体を肥す  
利口でやさしい眼と  
なつこい舌と  
かたい爪と  
厳肅な二本の角と  
愛情に満ちた啼声と  
すばらしい筋肉と  
正直な涎（よだれ）を持つた大きな牛  
牛はのろのろと歩く  
牛は大地をふみしめて歩く  
牛は平凡な大地を歩く

コロナ禍は続きます。

こんなときこそ、一步一步、踏みしめるように、毎日を過ごしましょう。

松蔭高校の皆さんが力強く前進する一年になることを心より期待しています。